



日本遺産
JAPAN HERITAGE
桑都物語

由木中央小



令和8年1月30日
学校だより 第12号
八王子市立由木中央小学校

教育目標 「すすんで学習をしよう」 「あったかい心をもとう」 「じょうぶな体をつくろう」

HP アドレス <https://hachioji-school.ed.jp/yugce/>

校長 松山 大作

光の春を迎えて

校長 松山 大作

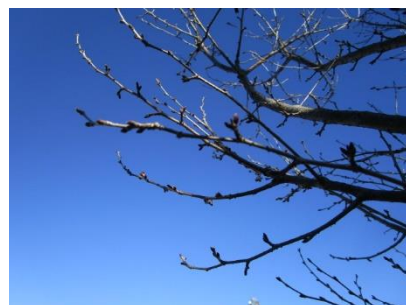
2月に入ると、3日は節分、そして4日は立春です。立春と聞くと、すぐにでも暖くなるような気がしますが、まだまだ寒い日が続きます。しかし、日の出の時刻は徐々に早くなり、日の入りの時刻は遅くなっていきます。その結果、太陽が出ている時間は毎日約2分ずつ長くなります。また、太陽の地平線からの角度も少しずつ高くなり、日中の明るさが増していきます。気温は低いままですが、光を通して春の訪れを感じられるようになることから、寒さの厳しい国では、2月のことを「光の春」と呼ぶそうです。長く寒い冬に耐え、春を心待ちにしている国の人々ならではの表現だと感じます。

一方、樹木は裸のままで何の変化もないように見えます。しかし、よく観察すると、枝先にはたくさん木の芽が付いています。一見変わらないように見える樹木も、しっかりと根を張り、水分や養分を吸い上げ、幹から枝々へと送り出し、花を咲かせる準備を怠りなく進めています。由木中央小学校の校庭の桜の木も同様です。春に美しい花を咲かせるための準備をしている桜を見ると、まるで未来のためにエネルギーを蓄えている子どもたちの姿と重なるように感じられます。

さて、古くから日本人に愛されてきた桜。その桜を見守る人々は「桜守り（さくらもり）」と呼ばれています。彼らは子守りのように静かに桜を見守り、励まし、世話をしながら、四季折々の変化を共に重ねていきます。桜守りは、木を過度にいじることなく、基本的には自然のままに任せることを大切にします。ただし、決して目を離さず、細やかに観察しながらも、大きな干渉は控えます。木は生きものであり、機械のように同じ動きをしません。一本一本の桜には個性があり、その育った環境も異なります。そのため、「こうすれば必ず育つ」という教科書どおりの方法は存在しません。木の性格をよく理解し、その個性に合わせて温かく見守ることが大切なのです。

同じように、子どももまた一人ひとり違います。子どもたちにはそれぞれにしかない個性という「花」があり、その花を咲かせるためには、育つ過程を信じて忍耐強く見守ることが必要です。たとえ今、成績が思わしくなくても、将来的にどのような素晴らしいことを成し遂げるかは誰にも分かりません。子どもたちの無限の可能性を信じる深い愛情があればこそ、彼らは自由に伸び伸びと育ち、「生き抜く力」という根をしっかりと張り巡らせていくのだと思います。

光の春。季節は暖かい日と寒い日を繰り返しながら、本格的な春へと近付いています。私たち大人は、子どもたちに励ましの陽光を照らし、その子らしい「花」を咲かせることができるよう、温かく見守っていきたいと考えています。引き続き、皆さまにはご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



学校公開・道徳授業地区公開講座

令和8年2月7日(土) (4時間授業・給食なし)

【授業公開】

1校時(8:30～ 9:15)・・・各教科等の授業

2校時(9:20～10:05)・・・2・4・6 年は道徳授業

3校時(10:25～11:10)・・・1・3・5 年は道徳授業

【講演会】

4校時(11:15～12:00) 体育館

講師 前川 育 先生

演題 「がんを知り、いのちと健康の大切さを考える」

対象 5年生児童と全学年の保護者

＊4校時の授業公開はありません。

＊児童は4校時終了後、12:10 頃下校します。

地区別集団下校について

2月13日(金) 14:50 下校開始

- ・当日欠席の場合は、親班長さんにもご連絡ください。
- ・普段学童を利用して、当日学童に行かない場合は、学童・学校・親班長の3カ所にご連絡ください。
- ・当日、習い事や放課後デイサービス等に行く場合は、集団下校後に、自宅から向かうようにしてください。